

第306回 昭和の森自然観察会

水辺の植物ひみつ？！

須田 聰恵（千葉市）

日 時：2017年6月11日（日）13:00～15:00

参加者：13名（大人9名 子ども4名） 指導員：10名

担当指導員：塚間初枝 須田聰恵

空梅雨で爽やかな日でした。受付に水生植物を数種展示して参加者を待ちました。

参加者は少なかったので、ゆっくり・じっくり観察することにしました。

1週間前には水面が見えないほどに茂っていたヨシをビオトープの会の活動でメダカの動きが分かる程にまできれいになった池に向かいました。

観察地点：1 藤棚近くの池 ⇒ 2 菖蒲田 ⇒ 3 ビオトープの畠田 ⇒ 4 下夕田池

先ず、1 の池ではガマとヨシを立ち姿、根、茎、葉の外観を比べながら、違いを見ました。

ここから今回のテーマ「ひみつ」に迫るための観察開始です。ガマの茎と葉をカッターナイフで切り、肉眼とルーペで空洞がたくさんあることを確認。空気の通る穴であることを教わる。それから、葉の表皮を丁寧に剥いでいくと白い繊維で区切られた空洞がたくさんあり、子どもたちは面白がって長い葉をきれいに剥いてしまいました。

クッションのような手触り、白い筋が軽くて丈夫な葉を支えていること、このハニカム構造は段ボールや飛行機の骨組みにも生かされていることにも触れ、水辺で生きる植物の知恵の一つを知り興味が高まってきた。2 では、丁度見ごろのハナショウブを愛で、アヤメの仲間の違いを知りました。3 の畠田ではウキクサとイチョウキゴケをカップに浮かせて観察し、根がバランスをとっていること、葉の断面に空気の入った空洞が並んでいました。良く見かけるホテイアオイを使って、水槽に沈めて手を離したらどうなるか予想し、子どもたちにやってもらった。予想通りに浮いたのはどうしてか？浮袋になっているとの答えに中を切って見ると確かにたくさんの空洞があり、ひみつをまた発見しました。最後の下夕田池では、副所長さんに池からスイレンを根毎採って頂きました。指導員が準備したハスの葉と比べてスイレンは切れ目があり、花や葉は水面近くにあること、ハスの葉に入れた水が玉状になるのは、表面にたくさんの凹凸があることなど教わりました。レンコンはハスの茎であり、たくさんの穴は水にずっと浸かっている根に空気を送る大事な通り道だと知り、また、ひみつを見つけました。

=参加者の感想=

- 1) ガマやマコモを切って断面を見て楽しかった。
- 2) ホテイアオイなどの浮く仕組みが分かって面白かった。3) 環境の違いでそれぞれ造りが違っていて、また、それぞれ理由があることが分かった。4) ハスとスイレンの違いも実際に比べて良く分かった。

帰り道、ハスの花柄やマコモの茎でシャボン玉を楽しみました。

